

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：チームビルディング，リーダーシップ，環境経済・政策 ILAS Seminar :Team building, leadership, and environmental economics and policy	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Global Environmental Studies Associate Professor,MORI AKIHISA		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	20 (15)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Wed.5
Classroom	26, Yoshida-South Campus Bldg. No. 1			Language of instruction	Japanese
Keyword	リーダーシップ / チーム / ゴール / 環境 / 事例分析				

[Overview and purpose of the course]

「京大までの人」から「京大からの人」に成長する

大学受験までで求められたのは、与えられた問題に対する解決法や解決するための知識を、個々人がいかに効率的に吸収し、答案用紙に解答することだったと思います。これは現在の様々な問題を解決する上で重要な技能であることは間違いありません。

しかし現代社会では、ウェブサイト上に多くの「正解」が掲載され、SNS上で「正解」を募集することも可能です。さらにAIの普及や「ハンコ文化」の撤廃は、今まで「秀才」や「エリート」と呼ばれていた人たちの仕事（「土業」）をなくしていきます。

このような世界で重要となるのは、既存の知識として共有されている「正解」を知識として蓄積することだけでなく（これがなければ検索もできません）、

- ・みんなに使ってもらうことで価値を持つ（ネットワーク効果）ような、新たな解決法を創出すること

- ・既知の「正解」と新たな解決法を組み合わせ（相乗効果）実現可能性を高めること

- ・こうした解決法を導き出せるように「課題」を設定しなおすこと、

が求められるようになっていきます（山口, 2019）。

このような解決法は、異なる考えや背景、専門性を持つ人々がアイデアを出し合い、その得意分野を活用して協働することで思い付き、発展させ、実現させやすくなります。これを円滑に行うには、多様な人々やアイデア、資産をまとめ上げる能力、即ちリーダーシップが必要となります（ハスケル・ウェストレイク, 2020）。

この授業では、多数の「正解」が示されながらもなかなか実施されない環境問題を取り上げ、グループワークによる課題設定、及び実際の取り組みの事例分析を通じて、問題解決の技法とその口頭及び文書による伝達方法を実践的に学ぶことを目的とします。

[Course objectives]

企業や組織、政府機関のリーダーとして、環境問題の解決あるいは国連持続可能な発展目標（SDGs）を達成するための「ビジネスプラン」ないし「政策提案」を構想し、参加者にわかりやすく発表する能力を身につけることが最終目標です。そのプロセスで、下記7つのどの学問分野にも転用可能な技法（transferable skills）の取得を目指します。

- (1) リーダーシップの発揮技法
- (2) 効果的なグループワーク
- (3) プレゼンテーション：課題の抽出方法
- (4) 論理的思考：因果関係の推論技法
- (5) 効果的なプレゼンテーション
- (6) 事例研究・調査の方法
- (7) 学術レポート・論文の執筆方法

[Course schedule and contents]

- 第1回 京大までの人と京大からの人
第2回 グループワークとチーム活動
第3回 リーダーシップ
第4回 伝える：プレゼンテーションとハンドアウト
第5-7回 テキストの輪読・報告・議論
第8回 事例研究の方法
第9-10回 問題の定式化・構造化と文献収集
第11-12回 中間報告と最終報告の準備
第13-14回 最終報告，レポート執筆方法
第15回 ふりかえり

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

- ・テキストの輪読報告とその議論：20%
- ・グループ口頭発表：30%
- ・グループ筆記レポート：40%
- ・その他授業への積極的な参加・貢献度：10%

[Textbooks]

森 晶寿他 『環境政策論』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4623071319（輪読用の教材として使用します．5月の連休前までに購入して下さい．）

[References, etc.]

（References, etc.）

- スティーブン・R・コヴィー 『7つの習慣 人格主義の回復』（キングベアー出版，2020年）ISBN:978-4863940925（リーダーシップとチームビルディングをできるようになる要点が満載）
- 小熊 英二 『基礎からわかる 論文の書き方』（講談社現代新書，2022年）ISBN:978-4065280867（レポートや論文作成に必ず役に立ちます）
- 古野俊幸 『宇宙兄弟とFFS理論が教えてくれる あなたの知らないあなたの強み』（日経BP，2020年）ISBN:978-4-296-10604-2（あなたのリーダーシップのタイプを診断できます）
- 平塚 知真子 『Google式10Xリモート仕事術』（ダイヤモンド社，2020年）ISBN:978-4478109205（Googleの機能を使い倒してオンラインでグループワークをしましょう）
- 山口 周 『ニュータイプの時代：新時代を生き抜く24の思考・行動様式』（ダイヤモンド社，2019年）ISBN:978-4-478-10834-5（この授業で行うことのエッセンスが書かれています）
- 平井 孝志 『武器としての図で考える習慣』（東洋経済新報社，2020年）ISBN:978-4492046685（考えを分析に資するように構造化するコツを伝えます）
- 堅達京子・NHK取材班 『脱炭素革命への挑戦：世界の潮流と日本の課題』（山と溪谷社，2021年）ISBN:978-4635310444（授業後半のビジネスプラン作成の事例研究に資する書籍です．）
- 日経エコロジー 『ESG経営：ケーススタディ20』（日経BP，2017年）ISBN:978-4822236977（授業後半のビジネスプラン作成の事例研究に資する書籍です．）

[Study outside of class (preparation and review)]

輪読やグループワークの一部は、授業時間外に準備をした上で、授業中に発表することが求められます。また輪読テキストは、自分のプレゼン担当箇所以外でも事前に読み込んでくることが期待されます。

[Other information (office hours, etc.)]

Google Workspace上のMicrosoft Word, Excel, Powerpoint を用いてグループプレゼン資料とグループレポートの作成を行います。大学のemail アカウントとは別にGoogle Account 及びGmailを取得しておいてください。